

編集後記

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が一向に収束する気配を見せない中、災害被災地ではコロナの感染防止と復興支援の両にらみでの対応に迫られています。無情にもコロナ禍であろうとも災害が後を絶たず、被災現場では多くの支援の手が必要となっているのが実情です。それにも関わらず、被災地ではコロナ禍に翻弄されているためか、災害被災地での復興支援の実情や課題についてなかなか耳に入ってこないのが現状です。そのため、「コロナ禍での復興支援とボランティア」を本特集のテーマに設定しました。

本特集では、災害復興学会会長の矢守先生からコロナ禍と災害復興を巡る思考の枠組みについて提示していただきました。今石先生からはコロナ禍での避難所運営訓練の取り組みや令和2年7月豪雨での避難所開設の状況について報告していただきました。高林先生からは令和2年7月豪雨災害での災害ボランティア活動の課題について報告していただきました。増野先生からは災害看護の立場から災害支援のあり方について論じていただきました。宮定先生からはコロナ禍での災害NPOの取り組みについて紹介していただきました。永野先生からは弁護士の立場からコロナ禍での法的支援制度の枠組みと法律家としての支援の実践事例について紹介していただきました。このように、本特集は幅広い分野の研究者・実務家の先生方からコロナ禍での復興支援のあり方や課題について多面的に議論していただき、多くの有益な示唆を提示していただきました。

本特集が、コロナ禍での被災地での復興支援のあり方や課題について広く知ってもらい、次なる復興支援の一助にさせていただくことを願うとともに、新型コロナウイルス感染症の一刻も早い終息を切に願っています。最後になりましたが、多忙を極めるなか、大変貴重な原稿をお寄せくださった執筆者の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

第26号特集編集担当：石原凌河・小川知弘

学会誌編集委員会委員名簿

委員長	飯考行	専修大学
副委員長	近藤誠司	関西大学
副委員長	田中正人	追手門学院大学
幹事	石原凌河	龍谷大学
委員	荒木裕子	名古屋大学
	小川知弘	関西学院大学
	高原耕平	人と防災未来センター
	田並尚恵	川崎医療福祉大学
	大門大朗	京都大学
	山崎栄一	関西大学

日本災害復興学会誌 復興 通巻 第26号 (Vol. 10 No. 1)

2021年9月11日 発行

発行者 日本災害復興学会

事務局 〒662—8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155

関西学院大学災害復興制度研究所 内

日本災害復興学会事務局 TEL. 0798-54-6996
